

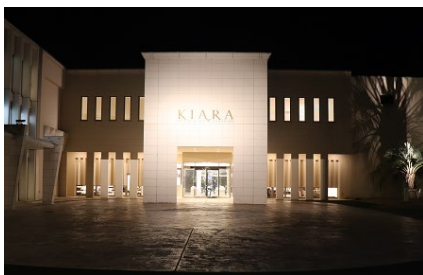
本稿は本協会正会員会社であるマグナリゾートの浜名湖レークサイドプラザとKIATRAリゾートを2022年12月に訪問したさいの記録です。記録は訪問者の主観に基づいており、一般社団法人日本リゾートクラブ協会の公式見解ではありません。なお、本文中の敬称は省略してあります。(文責:大谷・今泉)

## 1)施設

### 1:会員権

マグナリゾートの会員制事業は1986年の「浜名湖レークサイドプラザ(以下プラザ)」開業以来の歴史がある。

加えて、新施設「KIARA」の1期工事が2010年10月に竣工、さらに2期工事が20年8月に竣工、グランドオープンした。①プラザ専用の会員権に、②プラザ+KIARA併用の会員権が加わった。会員の概数はプラザ専用が8,000名、KIARA併用が2,000名、あわせて約1万名になる。KIARAはSmall Luxuryをめざし、2020年に増築オープンした。



顧客の要望の変化に応じて、あらためてお客さま目線で会員特典を付与するあらたな会員権を企画し、すでに販売を開始している。いま募集している会員権の例は以下のようなものである。

\*ザ・レジエント:880万円(10年契約、入会金508.2万円、権利金388.2万円、管理費33万円、年会費13.2万円)。

\*Well BIMDHMEC:440万円(10年契約、入会金297万円、権利金110万円、管理費33万円、年会費5.28万円) 権利金は5年で償却される。

...

料金体系(掲記2の会員に適用される大人の場合)・抄

宿泊料金		
プラザ	泊2	15,000
	泊・夕食	10,450
	泊・朝食	6,050
KIARA	スタンダード	19,800
	スーパーリア	22,000
	デラックス	24,200
	エクゼクティブ	26,400
	スイート	26,400
食事料金		
プラザ	夕食	10,450
KIARA	夕食	10,450
付帯料金*		
両施設共通	ORION	5,500
	the SPA	550
	Fitness	550

\*:ORIONはバイオスキャン・酸素カプセル健康機器利用料50分の場合。SPA・Fitnessは泊なしの場合。



## 2:会員特典の方針

会員への特典付与にあたっては、「使いやすさ」を重視して構成する。宿泊特典のみならず、付帯特典にも配慮する。むしろ付帯特典を重視する会員も一定数存在する。こうした工夫が功を奏し、週に1度は温泉やスポーツクラブを利用し、月に一度は泊って健康診断する会員はむろんこと、ほぼ毎日温泉を利用する会員、週に1度

は食事を楽しむ会員なども存在する。なかには親子2世代、マグナで結婚披露宴を



挙げたという事例もあるほどだ。マグナリゾートでは多頻度利用する会員が目立つ。

それでおなじシルバー訴求でも、アンチエイジングではなく、ウエルエイジングを提案していく。上手に美しくしていただく施設を目指す。会員にとって本施設が事実上のセカンドハウスないしは別荘のように利用されることを狙う。リピート客には「おかえりなさい」を強調する。

### 3: Well Ageing Resort

KIARA のコンセプトは「WellA」、つまり Well Ageing Resort である。加齢に逆らわず、加齢を享受するという考え方だ。KIARA の会員権を買うということは、おカネで健康を買うというに等しい。健康というと健康診断、医療の空間に身を置き、医師との対話が始まる。病気になって診察を受けるというまえに、健康のためにできることが多くあるだろう・・・この試みの提案が KIARA であった。

WellA は 8 段階の加齢享受・健康促進プログラムである。第一に体内の気を浜名湖の自然を背景に整える、二に養生食とはことなる楽しい健康料理、三に Fitness Room における日常の運動不足の個別プログラムによる総合的体力補充、四に予防医学健康機器による健康維持・罹病リスクの軽減、五に温泉による開放、六に宿泊による快眠体験、七に診断機関との提携を活用した検査、八にクラブ医師との気軽な相談や会話・・・会員はこうした「課題」を自らに課して豊かな余命を送ろうと、マグナリゾートは提案している。

### 4: 小口分譲から利用券

会員権の根拠を明確にするために、不動産を小口化し所有権を登記して「客観性」を高めた。これはアメリカでも同様である(後掲)。しかしプラザは開業以来35年超を経過した。その間、紆余曲折を経るも運営は持続され、お客さまの信頼を得てきた。このような実績を踏まえ、倒産隔離にこだわって無理に所有権を付ける発想から離れ、所有権(物権)から利用権(債権)にシフトさせた。会員権の種別に応じた利用券を発行している。これによって、会員は固定資産税の負担や退会自由の制約、相続に伴う名義問題の煩雑から解放される。

小口分譲とはひとつのユニット(客室・戸)を多数で共有することある。これによって形成される所有権は、買い手がつかず売りに売れない状況が起きる。会員が退会を意図しても所有権移転がままならないし所有権の放棄もできない。退会したい会員と事業者の間に退会仲介業者が介在し、手数料を取って退会を促進させるという。この退会仲介業者はクラブ運営者との間に多数のトラブルを誘発させることがある。

しかしマグナリゾートの場合は数件のみにとどまっている。これは、マグナの現経営者が会員制リゾート業界に長く、販売の現場の隅々を経験し、トラブル起こさない、顧客にとって納得のいく会員権の在り方を前提に会員権を設計しているがゆえと推察される。

(参考)

倒産隔離とは、会員にサービスを提供する義務のある事業主体が破綻した場合、会員の権利を守る仕組みのことである。アメリカの会員制リゾートの草創期には、こうした混乱が多発し、タイムシェア(以下 TS)業者は悪の象徴のように扱われたこともある。こうした問題を克服し、Hilton や Marriott のような大規模ホテルチェーン、Disney Enterprise などのテーマパーク業者が参入した。バケーションオーナーシップとも称され、1週間単位での利用を基準とする

商品ではあるが、日本の会員制リゾートに近似するところもある。

この普及の過程で会員制事業者が破綻し、タイムシェア購入者の利用権が消滅する事件が多発した。そこで倒産隔離を確実にするために、ひとつのユニット(利用単位となる部屋)を1週間分所有する登記を法制化し(例:ハワイ州法)、さらに業界団体を結成し(ARDA/アメリカリゾート開発協会)、提供するサービスの規格化や会員権販売秩序を自主的に維持する方向に進んだ。

主流は管理用の週を除き1年を51週とみて1室を51人で共有する。この小口分譲の登記は日本でいう持分共有に該当しよう。諸費用はキャンセルでも前納義務があるが、他社TSと交換、他人との賃借も可能だ。

事業者が倒産した場合、登記によって個々の会員の持ち分は確実に保護されるが、そのままサービスの持続的提供につながるか、あるいは住宅管理組合(HOA)が機能するかは不明である。

また日本の法律では、高齢化などにより会員が全く利用しない状況になっても、固定資産税の課税があるほか、契約次第で管理費を払う義務があること、よって相続が円滑に進まない恐れがある。登記した不動産の買い手がつかないと、結果として退会がままならないことから、かならずしも小口分譲の登記が会員にとって好ましいとは限らないという反省も生まれ、現在では、利用権方式(優先利用の保証)が主流になりつつある。

##### 5:三ヶ日におけるリゾート vs 観光

リゾートには同じところに長期に滞在する、あるいは、おなじところにたびたび訪れることを意味し、たとえば名所旧跡訪ねまわる観光とは趣を異にする。観光客とは英語の sightseer、tourist の和訳だが、景観を見て歩く sightseer はもとより、ぐるぐる回る(turn)をイメージさせる tourist もまた観光にふさわしい。もっとも観光という漢字自体

が、国王が領内を視察する意味の中国語の古語なのである。

したがって、資金を提供してリゾートクラブの会員になったからには、時間をかけてその利用を享受すべきものである。90年バブル期のゴルフ会員権の一部などにみられたような、会員権の値上がり益(キャピタルゲイン)を期待するものではない。リゾートクラブの会員権は利用されることを前提に設計されている。

その意味で、マグナリゾートはリゾート会員権がもつ本来の趣旨を強調している。また、現会員総数約1万名の60%が豊橋・浜松という2つの政令都市圏域に居住する。静岡と名古屋の両圏域を含めると確実に80%を超える。あえていえば三河・遠州、そして駿河と尾州が加わった会員が多頻度利用するための、Local to Localの会員施設でもあるのだ。



#### 6: 地産地消を超えて

そこで興味深い問題が起きる。会員外のビジターの、ことに遠来のお客さまにとっては地元の食材が珍しいが、地元のお客さまは地元の食材には格別の興味を示さない。三ヶ日といえばみかんだし、浜名湖といえば著名なウナギの養殖地であるが、「KIARA」や「プラザ」でみかんやウナギを強調しても、多頻度利用の会員は必ずしも高い反応を示さない。わざわざマグナを訪れなくとも、遠州三河一帯にはいくらでも店はあるからだ。

地縁がより深い会員ほど、地元では容易に経験できないものを要求する。少なくともそうした確率は増えよう。たとえば京懐石であり、ある意味での、このある意味については別途に説明する予定だが、本格的な

フレンチやイタリアンに多くの興味を抱く。しかもお膝もとの三ヶ日のみかん農家には高額所得者も多いし、大企業の事業所も多数立地し(ホンダ、スズキ、ヤマハの発祥地)、そこに勤務する好感度の住民も多く、おのずから海外勤務経験者の比率も高くなるだろう。逆に、東京や京都から訪れたビジターは、なぜ三ヶ日でフレンチやイタリアン、京懐石となるであろう。密かにみかん・ウナギを期待していた向きは、その旨を投書するかもしれない。

地産地消は大切にすべきキャンペーンではあるが、マグナは地産地消では片付けられない要求に対応しなければならない。こういうテーマを抱えるゆえに、料理人の選任はおのずから慎重になる。むろん割烹出身でもウナギも処理できるであろうが、周辺にこれだけウナギ店舗が集積すると、そこに要求される企画力や経験は相応に高くなる。本来、同じ和食でも、割烹とウナギは別系統で育成される。割烹の守備範囲はアナゴまでであり、ウナギは別である。マグナリゾートに必要なのはウナギ職人ではなく割烹の板長であり、フレンチやイタリアンのシェフと推測する。

また、料金体系も日本ホテル協会会員ホテルのような室料建ての Tarif ではなく、むしろ食事付きの料金体系(以下「泊2」と略す)が好まれるという。泊2のメリットは事前予約で食数が確定することだ。これによって板場やキッチンの仕事はしやすくなる一面はあるが、多頻度会員にいつも同じものを提供するわけにはいかない。料理長にはある程度の個別対応が求められる。多頻度利用の多いリゾート施設に固有の課題でもある。

## 7:ビジターの存在

プラザの稼働客室数は230、客室定員は計700余名、KIARAでも40室、100名になる。変動が大きいリゾート施設で稼働を平準化させるにはビジターが不可欠だ。これにより会員が負担すべき固定費が大幅に減少し、その分、会員特典を増や

すことが可能になる。会員とビジターの客数比は、「KIARA」で 10:0、「プラザ」で 6:4 くらいという。その成果もあって、COVID-19 による地球規模的客数減少期にはマグナもまた大きな影響を受けたが、その痛手は幾分少なかったようだ。経営者としては会員各位に支えられたという意味で、深い感謝の念を強調している。

(注)街角係数図挿入

#### 8:マグナリゾートへのアクセス

三河遠州圏域+駿河尾張に居住する会員が中心となれば、そのアクセスはクルマとなる。豊橋・浜松の市街地から 20~30 km、名古屋・静岡の繁華街から 80~100 km、三ヶ日 IC から現地まで 6 km である。マグナの開発用地は 2 万坪。駐車スペースは充分にある。したがって、宿泊客の 90%がクルマ、電車は 10%以下となる。

最寄駅からの無料送迎に慣れている遠来のビジターにはいささかクレームも出かねない。ホテルからの送迎は日に 1 往復、13 km 南に下った東海道線鷺津駅からである。



#### 9:クルマ社会のなかのマグナ

旧国鉄特定地方交通線の二俣線を後継した天竜浜名湖鉄道(株)は、静岡県や沿線自治体も出資する第三セクターで、1986 年の設立になる。新所原(前掲鷺津駅の次の駅)から浜名湖北岸を回って掛川までの天竜浜名湖線(以下天浜線)を営している。その途中の「奥浜名湖駅」はマグナリゾートと同じ下尾奈にある。地元の要求で 1988 年に設置された。小さなおもちゃのような無人駅なので、かえって可愛いか



んじはするものの、同駅には送迎バスやタクシーはなく、マグナリゾート入口まで 600m は徒歩となる。遠来の客にはクレームのタネとはなるが、ただし、ひとつ先の三ヶ日駅からマグナまでは 1.6 km。むろんそこにはタクシー会社はある。よって事前に予約しておけば良いのだが、慣れていないとそこまでは気づかない。

なお、天浜線の途中の西鹿島駅から新浜松駅を走る西鹿島線は遠州鉄道の経営である。かつて 4 つあった鉄道路線もひとつだけとなり、いまや遠鉄百貨店の方が有名である。浜松駅からの鉄道によるマグナリゾートへのアクセスは、運行本数が少ないうえに、浜松駅からの徒歩・乗り換え・待ち時間を含め 1 時間 50 分程度、また掛川から天竜二俣経由で奥浜名湖だと 2 時間を要する。豊橋から東海道線新所原経由は乗り換え待ち時間込みで 40 分程度で済む。(注)所要時間は平日昼頃の時間帯でジョルダン・乗り換え案内による。

ただ、いずれにしても電車での移動は容易ではない。いまさらながらのクルマ社会である。

#### 10: 濃い会員間の交流

「プラザ」も「KIARA」も、いわば Local to Local なので、会員のクラブに対する親密度は濃く、会員間の相互作用は高い。会員相互のゴルフコンペやテニス競技は活発である。あるとき絵画のリーダーが出れば美術のサークルが動き出したりもした。金融機関の延長のごとき事業のマッチングもあるようだ。形を変えたロータリークラブの如き方向に成長するかもしれない。

また、著名歌手を呼んでの会員向けディナーショーも活発に行なってきた。2019 年からは、美川憲一、梅沢富美男、純烈、小林幸子など著名なスターを呼んでいる。1 回 200 名で日に 2 回開催しチケットは完売するなど、年中行事に組み込まれ、定着してきた感じた。

#### 11: 興味深いマグナの立地

地図を見る限りの話だが、マグナの立地は珍しい得難い用地であるかもしれない。静岡県道 308 号鳳来三ヶ日線の北に向かって右側、湖岸寄りにあるからだ。湖岸のリゾート施設にとって敷地内から直接水面に出られるというのは魅力である。泳ぎや日光浴、ヨットのようなレジャーボートの係留も含めて、なにかと都合が良い。ある種のプライベートビーチである。

日本の法規制ではプライベートビーチはなかなか成立しない。関東大震災で陥没した私有地の海面について判例があると聞いたことはあるが、海岸や河川・湖沼の水面は占有はともかく私有できない。春分・秋分の日の満潮時の水際線と日ごろの干潮時とのあいだにできる砂浜を「海浜地」という。これは公有水面であって、国民みんなの砂浜になる扱いだ。地形的にみて施設外の人々入りにくければ、他者が訪れにくいので、おのずからプライベート化することもあるが、正式にはみんなのものである。たいていは私有地と海浜地のあいだに公衆用道路があるはずだ。護岸工事の費用負担のこともあるから、リゾート事業者にとってその方が都合が良いかもしれない。それでも、会員にとって、公衆用道路をまたいで水際に出られるとしたら、真夏の利点になるであろう。仮設的浜茶屋や浮棧橋を設けてマリーナ風にするなら水域占有の申請になるであろうが、あるいは漁業権交渉になるのかもしれない。浜松市は政令指定都市だからいまや市長権限で可能かどうか。それでなくても浜名湖や猪鼻湖(奥浜名湖)を含む都田川は2級水系だから、県知事か政令市長の権限に含まれる。いずれにせよ夢は描け、会員にとってもマイナスではない。

## 12:マグナの SDGs

1980 年代後半、調査でアメリカの著名スノーエリア・コロラド・アスペンを訪れた折、空路も空港も禁煙だった。喫煙家としてまさかと思った。宿泊したホテルにアメニティ(歯ブラシなど)がないので、いかにもケチだ

と思った。開発業者に事情を聞いてみた。いまでいうSDGs、まさしくSustainability、当時でいう環境保護の推進。地域ぐるみプラスチックの減量だったのである。SNの旅行代理店サイトでプラザを検索しクレームをみると、アメニティ・ゼロに関する記述が多かった。いまプラザに歯ブラシ、KIARAにアメニティセットがあったが、プラスチックではなく木製だった。



江戸時代の三ヶ日は藺草(畳表の原料)の産地だった。プラザの和洋室、KIARAの洋室の一部に畳が使われていた。

### 13:老後安心な町ランキング・日本一

計算手法の詳細は不詳だし、もとデータで何を使うかで、この種の調査結果は大きく変わるもんもだが、厚生労働省の資料(平成27年厚生労働科学研究・詳細不詳)と、平成25年度平均消費者物価地域差指数(総務省統計局)にもとづき、雑誌「プレジデント」が、「老後安心な町・全国ランキング発表」として掲載している。

「物価も安く健康的に暮らせ、移住者の受け入れ態勢が整っている場所は…」ということで、歴史好きには浜松市三ヶ日町、勉強好きにはつくば市という結果を出した。3位に豊後高田市、与論町(鹿児島)、5位富士河口湖町(山梨)、6位松本市と並ぶ。一都三県では14位に千葉県外房のいすみ市(旧夷隅・大原・岬各町/イセエビの収穫で有名)が登場する。この調査結果の一覧表のおすすめのポイント欄で、三ヶ日町について、「田舎体験イベントを積極的に実施中、移住者が多く、移住歴が10

年に達する人も、空き家バンクがある」と記されている。

出典:「プレジデント」、2017年1月16日号、pp.86-87。

#### 14:M&Aの過去

かつて繊維商社の蝶理がこの埋め立て地に遊園地を構想したことがあるという。プラザは1986年に国際リゾートサービス(株)(後年・アルシアと改称)が60億円で建設、浜名湖レークサイドプラザとして開業した。90年バブルの崩壊を受けて、日本の不動産は急落し、日本のリゾートないし開発計画に大きな影響を与えたが、アルシアは破産した。うわさでは自動車のダイハツグループの子会社(1998年からトヨタの子会社)も興味を示したようだが、現・NFCが2006年に買収し会員制事業を始め、関係会社のマグナリゾートが運営している。現会長の小宮山翔子、現社長の條勇二郎は2008年から就任し、2010年にはKIARAを立ち上げ、現在に至っている。

ホテル業界では会社売買(いわゆるM&A)が盛んだ。問題はM&A後の経営手腕にある。プラザは紆余曲折を経るも、竣工後35年を経て運営を継続している。この会員の信用の基盤になろう。ことに会員権の債権化を踏まえれば、この先も事業者の日々の地道な努力が継続され、さらなる持続を祈念したい。

#### 参考

ホテル業界のM&Aは世界中で盛んだ。ことに円安で日本は狙われやすい。また、事業者が倒産しても、施設が「秀逸」であれば生きかえる。超著名ホテルなら相当の年数を経ても買い手がつく。パリにはムーリス、ル・ブリストルあるいはシャングリ・ラやマンダリン、ヴァンドームとかペニンシュラのような新手の高級組が誕生しているが、1898年生まれのリッツパリも、たしかエジプト人が約500億円かけてリニューアルし現役に復帰している。1泊室料2000€まではしなものの、リッツカールトンの上位レベルにある。むろん高級であれば良いというものでもな

い。重要なのは「効率」である。会員が喜んで施設を使い、支払って頂いた利用料で施設が維持できるという意味での「効率」である。

#### 15:経営者の紹介

株式会社マグナ!リゾート代表取締役会長小宮山翔子と同代表取締役社長條勇二郎のプロフィールは以下の通りである。

小宮山翔子:1949年京都府生まれ、(株)国際リゾートサービス東京本社会員事業部に入社、2006年(株)N.F.C代表取締役社長、2009年(株)マグナ!リゾート代表取締役社長、その後、2016年に(株)N.F.C及び(株)マグナ!リゾート代表取締役会長に就任し現在に至る。

條 勇二郎:1957年熊本県生まれ、(株)国際リゾートサービス東京本社会員事業部に入社、1998年(株)マグナ!リゾート会員事業本部に転籍、1999年浜名湖レークサイドプラザ総支配人となり浜名湖ロータリークラブ在籍、2002年(株)N.F.C代表取締役社長、その後、2009年(株)マグナ!リゾート代表取締役社長に就任、あわせて2010年(株)キアラリ



ゾートを設立し代表取締役社長に就任し現在に至る。

## 2)料理

### 1:料理 まえおき fusion

マグナリゾートの料理の特徴はひとくちにいうと「fusion」であろう。異種組み合わせによる新趣向の追求である。一方で伝統に凝りながら、あたらしいものへの追及を試みる・・・と感じた。すでに触れたように、マグナの会員は、三ヶ日をおひざ元に、三河・遠州一帯に会員を持ち、さらに尾張・駿河に拡がる。和歌山出身の山葉寅楠が、日本楽器やヤマハ発動機の礎を造り成功を収めたように、あるいは、みかんの苗木を吉良や和歌山あるいは鹿児島に端緒をもつ温州みかんを取り入れ、さらには三河にありながら豊橋の商人に出荷するなど、よそ者に



は寛大な一面があるし、よその事情に強い関心を持つ基盤があるようだ。

世界の料理はフレンチと中国そしてトルコが握っている。フレンチは違う、フレンチのルーツはイタリアンだというのも、当たっている。しかしながら異民族が交わる ghetto のような空間でうまい料理のもとが育つ。シドニーやサンフランシスコあるいは昔日の香港など、さらに歴史の厚みから見てイスタンブールはその権化でもある。そういえば、神戸や横浜もそのミニ版ともいえよう。肝心なことは、本場で修業した料理人は宝物だが、いかに中国広東で一流の料理人を東京に移住させ、腕を振るわせても限界はある。人気店のシェフの料理は意外に現地の味を尊重する。渋谷の某鉄人のフレンチなど

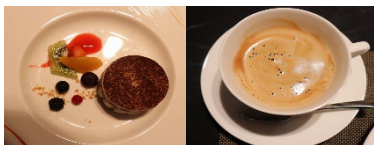
は、ほぼ和食ではないかというコメントも、正鵠を得ている。



前置きが長くなったが、マグナの料理もそういう視点に立てば良く理解できる。少なからず費用を負担し会員になってまで食事に訪れるのであるから、どこにでもあるものでは飽き足りない。本物である必要があるが、まずくては話にならない。本物がおいしいとは限らない。美味しい不味いは過去の記憶、経験に依存するところが大きい。料理人はお客にある程度の冒険を強いる。しかし、かけ離れた冒険は控える。その範囲は？ シェフ(chef、1番、その現場の長)は研究熱心でなければならない。

## 2:和食料理長吉田道彦と嵐亭・京都センチュリーホテル

マグナに総料理長はいない。現経営者の方針である。おそらく、やがて訪れるマンネリ化を避けるためであろう。ただしリーダーは存在する。和食の吉田道彦だ。履歴が語るようにさまざまに経験してきたが、コアとなるのは京都・嵐亭での11年間の経験で



ある。京都・嵐亭を知るには、京都のホテル史を少なぞる必要がある。別にも触れるが、会社を売買する(M&A)など、経営者本来の精神に悖るともいえるのであるが、念のため、ホテル業界は国際的にみてもM&Aが行われやすいと付記しておこう。

そのうえで京都での本格ホテル(以下 H と略す)の嚆矢は京都 H(1895 年に 80 室 定員 131 名で開業・現京都 H オークラ)である。これに旧近鉄系の都 H(1900 年に 92 室 165 名で開業・現ウエスティン都 H 京都)、そして 3 番目は京都ステーション H(1928 年に 71 室 108 名開業・現京都センチュリー H(ただし立地が異なりもとは駅の北側/東洞院塩小路南西角にあった)が続く。前 2 者とことなりステーションはビジネス H 的機能を果たしていた。明治期から大東亜戦争(以下 WW II)までには興味深い話がいろいろあるが省略する。

さて、WW II で京都に戦災はなかった。この 3 つの H は戦前のまま残ったが、進駐軍の接收を受けた。ステーション H は司令部宿舎となり 52 年接收解除。60 年からの池田勇人による高度経済成長政策で繁栄を極める。62 年京都嵐山に料亭・嵐亭(後・H 嵐亭)を開業する。そして 80 年代の京都は H の建設ラッシュを迎えた。京都ステーション H では再建に尽力していた岡山の林原一郎(株式会社林原の創業者・水あめで成功)が所有していた用地に、81 年、京都センチュリー H を開業(84 年に京都ステーション H は閉業)、順調に経営していた。しかし、林原が得意としていた抗がん剤用途のインターフェロンでつまずき、2011 年 2 月会社更生法適用を東京地裁に申請、3 月に更生手続開始が決定した。林原の本業は長瀬産業の子会社として継続され、H の方は京阪電鉄がスポンサーとなって継承し、H 嵐亭は京阪から森ビルに売却後、森ビルが 15 年に「翠嵐(すいらん)ラグジュアリーコレクション H 京都」として新たに開業した。吉田はかかる H 嵐亭や京都センチュリー H の割烹で経験を重ねてきた。

...

料理長、吉田道彦プロフィール。1967 年愛媛県出身、1985 年より和食料理人の道へ、京都を中心に、広島や松山の有名旅館・ホテルで腕を揮う、2000 年から京都センチュリーホテル、京都嵐山・嵐亭、



2011年から仙台・岩沼屋で総料理長を歴任した後、2014年、NEMU HOTEL & RESORT の和食総料理長、2018年、山代温泉みやびの宿・加賀百万石の料理長、2020年別府鉄輪温泉・神和苑の総料理長を経て、2021年5月、マグナリゾート和食料理長に就任し現在に至る。

### 3: 吉田の使命

京料理の確かな伝統を継承しその土地の素材を活かしながら、日本の美しい四季と旬を映した繊細で華やかな料理に定評がある。その吉田の使命は会員に和食/割烹料理を紹介することだ。ただの京懐石ではない。すべからく、ことにKIARA にあっては養生食を超える健康料理でなければならない。そのうえで京懐石を基礎にした「リ



ゾート懐石」である。

平安宮中の大膳料理に端緒を持つ懐石だが、茶事の懐石はもてなし料理で楽しいはずのものだった。流儀が様々な規則を作りつまらない料理にした一面がある。そのカジュアル版が江戸会席でもあるが、あるべき「リゾート懐石」は退避的な暗いものではなく、あかるくおいしさを伴う外向的な料理であろう。果敢に和洋折衷も試みる。インフレのせい、材料が高騰している。ふぐはまだ良いが、越前・松葉ガニは1杯4万円でいまは異様に高い。それでも確かで有利な素材を全国に求める。

会員の味覚に合わせるだけでなく、味覚をリードしていく。薄味だが上品で旨いだしを取る。会員の反応を見て、是非を判断し、非は必要に応じて変えていく。京懐石であるからと言って京都の石野味噌は使い

にくい。信州モノも塩が強すぎる。しかし醤油はヒガシマルになる。

丁寧な仕事を心がけるが、手間をかけすぎも良くない。必要に応じ部屋出しする。旅館のように全部並べて提供すること



はしない。料理は数回に分けて提供する。

泊なしの食事の会員にはプライベートな要求に応える。たとえば会員が接待としてつかうときには、接待にふさわしいゲストルームを使ってゲストをもてなす。会員からの要求を細かく伺って、会員の接待先(ゲスト)が満足するような料理にして行く。その延長でゲストが会員になって頂けたら、料理人として良い仕事をしたことになる。

連泊の会員には変化を付け、3泊くらいなら献立を工夫し飽きさせないようにする。

#### 4; マグナリゾート経営者のうなぎ推奨店「有栖」

いまやウナギは牛丼屋の献立にも乗る時代だ。ただそのウナギは重量からみて本当に安いかどうかは別だ。冷凍のウナギも加工方法で味覚が変わるが、本来は、1匹1人前で、客の注文があってから開き、それから焼く。関東風は焼く→蒸す→焼く、関西風は蒸さない。往年、関東の本場物は利根川産であった…。天然物は匂うとしてかえって養殖物が好まれるかもしれない…。とにかく、マグナ條社長の推奨店は以下であった。

うなぎ 有栖 〒431-1406 静岡県浜松市北区三ヶ日町駒場 99-10 電話 053-528-1135 営業時間 11:00～14:00、17:00～20:00 定休日 毎週水曜日 交

通機関 天竜浜名湖線 東都筑駅 徒歩  
14分



「皆さん、こんにちは。浜松市北区三ヶ  
日町にある和食・うなぎ 有栖代表の石野  
隆康です。『うなぎ職人が焼く蒲焼・白焼  
(しらやき)の香ばしさ』有栖でお出する  
鰻は、関西風地焼きです。外はこんがり、  
中はふんわり。自家製たれで仕上げた職  
人技ならではの味わい深さを、お楽しみくだ  
さい。昆布と鰹節でとった一番だしを使うキ  
モ吸いと一緒どうぞ！」

### 3)付帯施設

#### 1:温泉施設

マグナリゾートの温浴施設は、プラザの「万葉の華」が天然泉、KIARA は人工泉である。

プラザの天然泉の源泉地は三ヶ日温泉で下尾奈字ナメ入り308-4、マグナの敷地内である。1600m掘削し、29.0℃、毎分81.0Lの湯量を確保した。穏当な湯量と思われる。2004年8月31日の調査では、水素イオン濃度 pH9.82であった。

泉質は低張性(人体の細胞液より低い浸透圧)、アルカリ性(pH8.5以上)、低温泉(25℃以上34℃未満)、溶存物質299.4 mg/kgである。源泉温度が25℃以上で、温泉水1kg中の溶存物質(ガス性のものを除く)が総量1000mg以下が単純温泉、また、pH8.5以上の単純温泉はアルカリ性単純温泉という。いわゆる名湯に多く見られる温泉で、刺激が少なく、身体にやさしく、諸成分が少量ずつ含まれる。

KIARAの人工泉は高張性の炭酸泉に匹敵する。湯に炭酸ガスが溶け込み、泡が体毛に付すと、皮膚の表面がラムネ状になる。温泉法で炭酸ガスが250mg/L以上溶けたものが炭酸泉、1000g/L以上を高濃度炭酸泉と定義するので、KIARAの湯は高濃度炭酸泉に該当する。低温・長湯が可とされ、芯から温まり、湯上り後の持続性も優れる。医用にも使われ、人工泉といえども天然泉を超える効果を持つこともある。

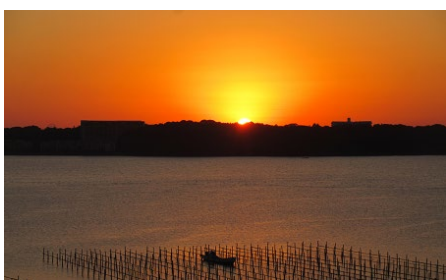
#### 2:スポーツ施設

シニア向け消費カロリー2倍のトレッドクライマーやタニタ体組計はじめ画像のような機器がそろっているので、会員は自在に使えるが、単にそれだけではなく、インストラクターが会員の健康状態をチェックするとともに、個々の事情に合わせて、トレーニングプログラムを作成し、提案するとともに、レッスンの進捗状況を見守る。

### 3:健康促進機器+顧問医

ORION バイオスキャン、高気圧酸素カプセルは、健康測定プラス改善効果もあるとされる健康促進機器であるが、薬事法の関係で治療効果があるとは記述できない。

会員はマグナリゾートのいわば顧問医師による定期的(2カ月に一回程度)な来訪があるので、その折にコンサルを受け、指導により、これらの機器を使うこともできる。また、同医師の出身教室との連携で、PET や MCI(軽度認知障害の予防改善)による検査・診察を受けることが可能である。通常の宿泊付き人間ドックに比べ、密度の高い検査診療を期待できる。また、近親者や友人に医師がいない場合、かかりつけ医以外に、こういう形で医師と知り合いになれることは、こころ強いものがある。



#### 4):歴史的背景・・・旧領国とみかん

##### 1:下尾奈

マグナリゾートのある「北区三ヶ日町下尾奈 200」の下尾奈は江戸時代からの地名である。江戸末期・明治維新当初の状況を示す旧領石高取調帖では以下のように記録されている。下尾奈は当時の浜松藩(井上河内守)の領分だった。旧三ヶ日町はすべて 6,061 石。内、井上河内守 1,048 石、近藤力之助 1,013 石。ついであるが、その領地は遠州で完結せず、下総に 7,041 石、播磨に 9,510 石存在する。

遠江国敷地郡・旧高旧領取調帳(抄)

番号	旧村名	旧領名	旧県名	旧高(1)
25	三ヶ日村	井上河内守(浜松藩)領	浜松県	424
26	三ヶ日村	神明社領	浜松県管下	42
27	三ヶ日村	金剛寺領	浜松県管下	50
28	三ヶ日村	江雲寺領	浜松県管下	5
41	下尾奈村	井上河内守(浜松藩)領	浜松県	362
42	下尾奈村	神明社領	浜松県管下	11
43	下尾奈村	竜谷寺領	浜松県管下	9
44	下尾奈村	円通寺領	浜松県管下	9
45	上尾奈村	井上河内守(浜松藩)領	浜松県	133
46	上尾奈村	白山社領	浜松県管下	2
50	摩訶耶村	近藤力之助知行	浜松県	145
51	摩訶耶村	摩訶耶寺領	浜松県管下	70
52	摩訶耶村	摩訶耶寺除地	浜松県管下	5
53	大福寺村	近藤力之助知行	浜松県	148
54	大福寺村	大福寺領	浜松県管下	77
55	大福寺村	九山寺領	浜松県管下	1
56	大福寺村	近藤力之助知行	浜松県	94

(注) 国立歴史民俗博物館のデータベースの検索結果から抜書き

藩というのは江戸幕府の事務用語としては必ずしもこなれた用語ではなく、単に支配者＝領主の住む地名を付して使った便宜的な言葉のようだ。尾奈は浜松藩だからと言って、浜松に圧倒的な一体感があるとは限らない。いまのマグナリゾートの会員は三河豊橋の方が遠州浜松よりは多い。また、あとで触れるみかんの歴史も、その勃興期は遠州よりは三河に依存していたようだ。

##### 2:駿・遠・三・尾の石高比較

よそ者にというか、関東から見て、伊豆はともかく、駿河・遠江(静岡県)、三河・尾張(愛知県)の境界や勢力はなかなか判別しにくい。徳川の世になってはすべて徳川家の領地にみえるがそうでもない。浜松藩などは江戸幕府 265 年の間に 12 家が封じられ、藩主は計 22 名が就任、平均 13 年

に一回代替わりしている。多くの藩主がここから幕府の中枢に異動するらしく、大名の出世コースといわれる。現・浜松市も大名の実績プラス徳川家康にあやかって、「出世の街・浜松」として観光キャンペーンしている。

国別石高は駿河 25.1、遠江 37.2、三河 47.2、尾張 71.5 各万石。改めて4つ並べてみると勢力の違いが判る。旧石高でいうと面積の小さな尾張がもっともおおきい。平野が多く米がとれたことになる。駿河はもっと大国に思えたが、足し算が正しいとすれば尾張の 1/3。織田信長が今川義元に戦いを挑んでも不思議はないし、今川義元にしても三河を支配してはじめて織田を超えられる。徳川家康はその分裁量があると弾いて、今川から距離を置き織田に付いて、

蔵人佐(無位)から太政大臣、源氏長者(贈正一位)まで出世した。

各国の最大藩主は、駿河・大久保加賀守(小田原藩)領分 17.7 万石、遠江・井上河内守(浜松藩)領分 5.7 万石、三河・豊橋藩(吉田藩)領分 6.1 万石、尾張・名古屋藩領分 69.2 万石となる。御三家の尾張以外は分割統治だ。三ヶ日は遠江・浜松藩の領地に属しながら、三河の豊橋との交流が深いようだ。



### 3:三ヶ日みかんの発祥

運転免許のない筆者は天浜線でマグナに行くことにはなるが、車窓のみかん畑は印象に残る。よくまあこれだけみかんを植えたものだ后感心もし、みかんというのはよほど儲かるものなのかとか感嘆もしかねないが、しかし、江戸時代、みかんの産地は紀伊国屋文左衛門の紀州であったはずだと思いつく。なぜ三ヶ日がという興味と、いまのマグナリゾートの会員には近郷のみかん農家

も少なくないであろうし、マグナリゾートの今後の発展と当地のみかん産業の栄枯盛衰とは一体の関係にあるかもしれない。そうであれば、なおのこと、なぜ三ヶ日にみかん…について、寸見を記しておく必要がある。以下は、三ヶ日町史下巻・数か所早読みのまとめにすぎない。ついでながら三ヶ日図書館は、利用日がたまたま穏やかに晴れた12月のある日の10時ごろ…。日柄もあいまって、いつまでも読書していきたい雰囲気のある立派な施設であった。

さて、町史によれば、今の三ヶ日みかんの興隆にすくなくも3名の先人が大きく係わるという。

その第一は小みかん(紀州みかん)の苗木にある。江戸中期の享保の頃、西国巡礼にでかけ、その途中、紀州那智で1本の苗木を持ち帰った平山村の山田弥右衛門(通称弥太夫・1730没)である。開墾して6反の畑に灌漑用水を引く。そこにキコク(カラタチの一種)やユズに接ぎ木して増やした苗木を植えた。100年後には平山一帯がみかん畑になり、その一部は樹齢7～80年を数え、明治10年ごろでも生存が確認できたらしい。領主の近藤家知行国高帖に平山村7石6斗の山手米(山年貢)とあるので、地場の産業になっていた可能性があるという。

第二は雲州(温州)みかんの苗木である。天保の頃に、同じく平山村の加藤権兵衛が三河吉良から苗木を取得し、自己の畑に植えた。ただし自家消費の栽培であって、産業化には至らなかったという。雲州みかんは小みかんより大粒で、その発祥は鹿児島・長島。江戸時代から中国交易が盛んで、名づけに中国の地名温州の発音ウエンジュウにあやかり雲州みかん(別称・サツマみかん・サツママンダリン)と名付けという。転じて温州みかんになった。

第三はみかん生産への農業技術および販売革新の導入である。中川宗太郎(1895～1942)である。地元というには40kmほど東になるが、中泉農学校(現静岡県立磐田農業高)卒で農商務省農事試

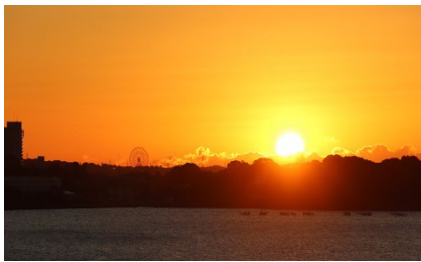


駿場園芸部に勤務していた。三井合名社員の三井高精(室町三井家主・男爵・英国バーミンガム大商卒・三井銀行取締役)が、当初、八丈島開発を志すも、転向して三ヶ日での柑橘園(開南組)事業に着手、その折、技手としてスカウトされた。大正の後半、弱冠 22 歳ながら以降品質向上のため肥料・剪定・防寒・土壌改良・販路開拓一切の指導に当たった。この項は、八木義弘「逆風の中で<上> 近代栽培の礎『開南組』誕生」、中日新聞、2015 年 3 月 20 日。

#### 4: 駆け足で三ヶ日みかんの発展

以下、明治初期から終戦後の昭和期まで駆け足で三ヶ日みかんの発展をたどる。

明治初期、不換紙幣の増発や西南戦争の頃、インフレが激しく財政は悪化、増税に向かうも深刻なデフレ不況に遭遇した。この間米価は、1876 年で 10 円当たり米 2.2 石、79 年に 1.1 石/10 円に高騰、そして 84 年にはようやく 6.1 石に戻る。ともかく現金収入につながる農作物の確保が急務で、藺草・タバコ草・みかん・桑・茶に注目が集まった。



穀類の畑を桑園にする勇気が必要だったが、みかんに比べて桑は早くカネになる。また、なんといっても生糸・絹製品は当時日本の主力輸出品に成長する。養蚕農家も全国的に増加、三ヶ日でも 1896(明治 29)年には養蚕専業農家が 1349 戸に至った。一方のみかんも、肥料の工夫や地質調査、開墾、薬剤研究、消毒用噴霧機の共同購入、下山尚農会の結成など、生産意欲も旺盛になり、1896 年 3.5 万貫が大正期には 30 万貫に伸びた。

そこで本稿はその輸送と販路に関心を持つ。まずは馬で近隣の消費地、浜松と豊橋に向かうことになろう。当時と今では道路事情も異なるので目安に過ぎないが、三ヶ日から両市の各行政機関所在地まで、Google 地図では以下の数値を得る。

三ヶ日～浜松 26 km 登り 127m 下り 119m 標高差 49m

三ヶ日～豊橋 25 km 登り 206m 下り 207m 標高差 152m 宇利峠

1897(明治 30)年のみかん輸送は馬による。宇利峠経由で豊橋に向かったとある。豊橋から仲買人がみかん園主を訪れ、山毎に値段をつけて、20%ほどの手付を払う「山売り」売買が主な販路であった。なぜか浜松から買いに来たとは書かれていない。みかんは豊橋に向かう。秋に採果し貯蔵して冬に売る。豊橋に貯蔵庫ができた。また、上級種のネーブルは 1908(明治 42)年に生産され初出荷となるが、このときも豊橋の高級果物店で販売された

みかん園主は豊橋商人の貯蔵庫を知ると、みずから貯蔵庫を設置し、採果から卸売まで自家で行うようになる。流通経路の主導権を生産側が握ると、売買契約も「山売り」から「貫売り」に変化しはじめる。

1888(明治 21)年に官設鉄道が浜松駅～大府駅間で開通したとき鷺津駅も開業する。三ヶ日みかんは浜名湖経由のルートができた。翌 89 年には東海道線が開通する。当然、販路は拡大する。

みかん園主→馬→三ヶ日浜名湖湖畔→湖船→鷺津駅…貨車…

1911(明治 44)年、静岡県柑橘同業組合連合会が設立され、輸出みかんの規格化と検査が始まる。輸送用の函や商標も統一されることになるが、他の静岡みかんに比し、三ヶ日みかんは品質上優位にあつたので、この規格化には猛然と反抗、従前どおりという例外を要求した。劣位の生産者が上位品を検査することはないし、箱の統一はカネがかかるから不要なのだ。しかし輸出規格に外れると三ヶ日みかんだけ輸出から外れる。識者が出て折り

合ったという記載がある。あえていえば、「貫売り」から「箱売り」になったともいえよう。

1914(大正3)年7月から18年11月、第一次世界大戦(以下 WW1)、終戦後の欧州製造業復興に伴う輸出市場の過当競争から戦後恐慌が発生、23年関東大震災、(被災地企業振出手形を日銀が再割引・震災手形騒動)、金解禁問題に伴う為替の不安定、そして29年10月24日ニューヨーク証券市場の大暴落とその後の大恐慌、同年11月金解禁とその後のデフレ不況が続く。輸出産業の中核を占めた蚕糸絹業は大打撃を受けた。加えて、町史に記載はないが1935(昭和10)年にデュポンの技術者カロースがナイロンを発明、それがポリエステルに発展するに及び、また和装着用習慣の退潮に伴い、日本の蚕糸絹業は明確に下降線をたどった。

三ヶ日の桑園・製糸農家も1923(大正12)年にピークアウトした。その意味では三ヶ日農家の適応力は秀逸だったといえる。徐々に、みかんが蚕糸絹業を超え、桑畑はみかん農園に変容し、1931(昭和6)年のみかん出荷60万貫は40年には150万貫に増加した。この間、新規の開墾、早生種の導入、品種改良、防寒防風対策(菘かけ・防風林)、名古屋市場参入があり、色・味・日持ちともに優位なることを消費市場に訴求、商標も温州みかんから「三ヶ日みかん」を呼称するようになった。

戦後に平穏が戻ると、みかん農家の生産意欲は向上、種々の研究グループが誕生した。ガス燻蒸害虫対策や栽培・剪定はじめみかん関連の農芸技術を追求し、みかんの生産性におおきく寄与した。個々の篤農家の熱意は多とする。しかし三ヶ日みかんが産地として威力を発揮するにはボリュームも必要である。こうした場面での、個か全体かの決着は容易ではないのだが、全体派の竹上善博(後・三ヶ日町長)が1971年2月に三ヶ日みかんの東京出荷を敢行したところ、市場最高値を付け成功を収めた。これを契機に、三ヶ日みかん

が国内市場で認知されるに至り、現在の  
繁栄とその謳歌に至った。

#### 5:三ヶ日の国際競合

ただ、貿易の自由化、しかも最貧国や  
発展途上国優遇のなかで、三ヶ日みかん  
といえども国際競争にさらされる。世界の  
柑橘と戦わざるをえない。もともと中国王朝  
(ことに秦)の秘匿技術だった蚕糸絹業は、  
一説によれば、551年頃、ネストリウス派の  
キリスト教僧侶が中国から蚕の卵を持ち出  
し、コンスタンチノープル(当時の東ローマ帝  
国)に持ち帰ったことにはじまり、そこから  
1000年を経て欧州から米国・日本にも伝  
わり、どの国も民族も希求する国際商品に  
育ったが、中国固有の産業ではなくなった。  
しかし、競争も激しく、その時代の主力産  
地国になっても100年程度しか続かない。  
久しぶりに本家帰りした中国の蚕糸絹業も  
人件費の高騰から揺らぐ。

三ヶ日のみかんも油断は禁物で、事実  
上、個々の生産者は世界の同業者を競  
争相手している。その成果はマグナリゾート  
の興隆にも関係することになる。そもそもリ  
ゾートは著名になるほど、社会変動の影響  
を受ける。緩慢ではあるが、栄枯盛衰、ラ  
イフサイクルはあるものだ。そこをクリアす  
るのが経営者の手腕であり、利用者の知恵  
でもある。

#### 6:リゾートには向くが観光には・・・?

奥浜名湖を含む湖沼は滞在や多頻度  
訪問のリゾートには好適で、浜名湖も眺め  
ている分には、滞在の背景にふさわしい。  
だが、さて、名所旧跡ないし飲食遊興先を  
訪ね歩く観光地になってはいるとは、なか  
かに断言できない。少なくとも公共交通機関  
と徒歩によってはほぼ不可能だ。自家用車  
で訪ね回るということになるが、その訪問先  
をいくつか探して、ルート付し回遊プランとな  
るとなかなか難しい。三ヶ日町観光協会は  
みかん狩りと寺社巡回、季節行事を強調  
する。

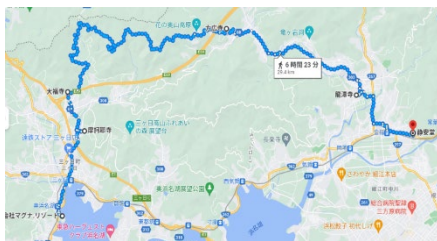
むろん浜松市に広げると種々登場はする。三ヶ日との縁は薄くなるが、たとえばマグナに泊りフラワーセンターは、組み合わせは可能である。浜松市は観光協会に代えて浜松市観光インフォメーションセンターという。浜松市内には三ヶ日はじめ舞阪や雄踏、奥浜名湖、天竜などの観光協会があり、互いに協力もしあうが、競合先にもなる。

## 7: 湖北五山・浜松市推奨

浜松市のホームページに、「出世の街・みりよく大集合・はっけん浜松」と称し、名所・旧跡として浜名湖「湖北五山」めぐりを提案している。五山とは摩訶耶寺、大福寺、大本山方広寺、龍潭寺、初山宝林寺である。



Google 地図に描くと下掲となる。



<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/miryoku/hakken/mesho/kohokugosan.html>

1. 摩訶耶寺(まかやし) 国指定重要文化財:木造千手観音像、木造不動明王像。奈良時代開基、真言宗の古寺。鎌倉時代の庭園。平安様式で池と築山と石で構成。京都・西芳寺(苔寺)と並ぶ。



浜松市北区三ヶ日町摩訶耶 421

2. 大福寺(だいふくじ) 国指定重要文化財:普賢十羅刹女像、金銅装笈、瑠璃山年録残篇。875(貞観17)年、教侍上人開創。裏山斜面を背景に前面に池。回遊式庭園。

場所:浜松市北区三ヶ日町福長 220-3



3. 大本山方広寺(ほうこうじ) 国指定重要文化財:七尊菩薩堂。1371(建徳2)年、後醍醐天皇皇子開創。老杉境内に五百羅漢。国指定重要文化財:七尊菩提堂。

場所:浜松市北区引佐町奥山 1577-1  
URL:<http://www.houkouji.or.jp/>

4. 龍潭寺(りょうたんじ):国指定文化財:小堀遠州作庭園、宋版錦繡万花谷、金沢文庫。733(天平5)年行基菩薩が開山。小堀遠州作国指定庭園、左甚五郎作龍彫刻、鶯張廊下。井伊家菩提寺。

場所:浜松市北区引佐町井伊谷 1989  
URL:<http://www.ryotanji.com/>

5. 初山宝林寺(しょさんほうりんじ) 国指定重要文化財:中国明朝風建築仏殿、方丈。1664(寛文4)年、独湛禅師開創。黄檗宗寺院。国の重要文化財:中国明朝風の仏殿方丈。

場所:浜松市北区細江町中川 65-2  
URL:<http://www.oubaku.org/shosan/>

#### 8:姫街道:

東海道53次は、実は、29番目の見付宿/袋井市と36番目の御油(ごゆ)宿/豊川市は2手に分かれる。通称する東海道は海岸回りで浜名湖の南側を通る。しかしもう一本あって、その道は浜名湖の北側、本坂(ほんざか)峠(現在は本坂トンネル:国道362号バイパス、ただし旧道も362号線として残存)を経由する。沿道に縄文の遺跡があるとのことだから先史より存在する道である。これを姫街道と呼ぶが、時代の変遷とともにルートも変わり、現代の新・姫街道につながるも、旧道は部分的にはともかく、全貌は不詳である。

三ヶ日宿もこの姫街道にあったが、いかながらいまは何も残っていない。史跡として気賀関所が整備され見学に供されている。また、嵩山(すせ)宿は標識がある。単なる標識だけだが、子細に見ると旧跡が残

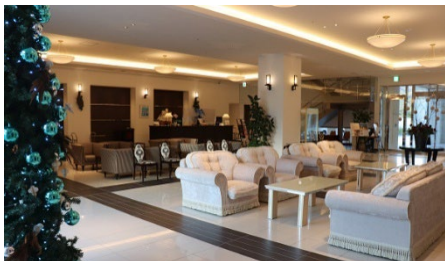


され、興味をそそるようだ。それゆえか、姫街道全 60 km や豊橋に属する嵩山宿周辺を歩く歴史好みの趣味人が存在する。ご関心の向きは HP を検索されると良い。

古来、この姫街道が東海道の本線だったようだが、江戸時代の東海道では脇街道になった。あくまで参考だが、Google Map によれば、南回りは登り 167m・下り 143m で高低差 41m、北回りの姫街道は登り 306m・下り 282m で高低差 128m である。河川の船での渡河が気にならないなら、小さな坂を昇り降りする南回りの方が楽そうだ。



宝永地震(富士山爆発)の折には、本道の浜名湖・今切の渡しが不通でこちらを通過する旅人が多く、地元は大変迷惑がり、通行禁止を幕府や領主に訴えたという。また、徳川家定に輿入れした天璋院篤



姫の行列は姫街道経由であった。女性の旅人に人気があるため「姫街道」という名称になったという説もあるが、姫街道の由来は諸説あり定かではない。

(注)本稿は 2022 年 12 月に行った現地調査による。大谷の報告文を今泉が校閲したが文責は大谷にある。一般社団法人日本リゾートクラブ協会の公式見解ではない。